

報告タイトル

日本人とインドネシア人の国際結婚
—アイデンティティ交渉と宗教的実践を中心に—
Identity Negotiation and Religious Practices
in Japanese-Indonesian Intermarriage

氏名(所属)

エリサ ウルフアー (Elisa Ulfah)
拓殖大学大学院国際協力学研究科
国際開発専攻

要旨(800字程度)

本研究は、ライフストーリーアプローチによる質的研究である。被験者は、日本において日本人男性と結婚した7人のムスリムと1人のキリスト教徒のインドネシア女性である。本研究では、宗教的アイデンティティ交渉と宗教的実践がどのように行われているかを明らかにする。インドネシア人妻と日本人夫の国際結婚における宗教に関する先行研究では直面しやすい宗教的な問題を取り上げていなかったが、本研究を行った結果、日本の家族の礼拝への支援の欠如、礼拝施設の不足、子供の宗教教育の欠如、イスラム墓地の欠如といった問題の存在が明らかになった。解決法も併せて考察した。インドネシア人は日本人とは異なる宗教的背景を持っているため、本研究は新たな知識をもたらし後続のカップルにも価値があると考えられる。

先行研究である在インドネシアのインドネシア人妻と日本人夫のケースでは被験者は3人であったが、本研究の被験者は8人である。先行研究では結婚後に結婚前の宗教に戻った日本人夫はいなかったが、本研究では結婚後に3人の日本人夫が結婚前の宗教に戻り、1人のインドネシア人妻の被験者は夫の宗教である創価学会に改宗した。被験者の7人は宗教的慣行を守り続けているが、被験者の夫や子供の宗教の問題を抱えている。結婚後にインドネシア人妻の信仰は弱くなっていくが、1人の被験者だけは結婚前よりもイスラム教への信仰が強くなっている。宗教的アイデンティティ交渉における主な問題は、結婚相手の両親の宗教と宗教観である。夫は一般に妻の宗教を問題にしないが、特定の宗教に強く依存している日本人夫の場合、対立が生じている。結婚する時に宗教を決定しているのはいずれの場合もインドネシア人妻であるが、その要因は日本人夫の無宗教による無関心、インドネシア人妻とその家族の宗教の深さ、結婚する際にインドネシアの法律により求められる夫婦同一の宗教にあると考えられる。